

機関番号：10101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19730235

研究課題名（和文） 地域経済が示す産業革命～新潟県北魚沼郡の蚕糸業と小出銀行～

研究課題名（英文） The Regional Economies and the Industrial Revolution

研究代表者

内藤 隆夫（NAITO TAKAO）

北海道大学 大学院経済学研究科・准教授

研究者番号：60315744

研究成果の概要（和文）：

本研究では、従来は産業革命の「周辺」とわれてきた地域における着実な資本主義化を実証することにより、産業革命が時間差を伴いつつも日本経済を貫く現象であることを示すことを目的とした。そのため、具体的には新潟県を事例に、蚕糸業（養蚕業および製糸業）・金融業の展開を地域経済と関連づけて検討し、さらにそれを石油産業と地域経済の関係と比較検討した。

その際、『日鑑』『貸附金元帳』『荷為替手形元帳』などの銀行の一次史料、中野重孝家文書、愛知大学所蔵の大正期日本石油産業史関係資料など、従来ほとんど利用されていない一次史料を中心とした膨大な史資料を利用した実証研究を行った。

そして、そこで解明した個別研究の積み重ねを通じて、日本における資本主義経済システムの定着過程を、その中心ではなく周辺とされる新潟県のような地域を事例に実証することによって、明らかにすることができたと考えている。

研究成果の概要（英文）：

In this study, first I studied the development of the sericulture and the financial industry with regional economies of Niigata prefecture in Meiji and Taisyo era. Second, I compared the result with the development of the petroleum industry with regional economies of the prefecture.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	600,000	0	600,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,500,000	570,000	3,070,000

研究分野：経済史

科研費の分科・細目：経済史

キーワード：産業革命・地域経済・地方銀行

1. 研究開始当初の背景

研究前半の主たる対象となった、新潟県北魚沼郡の蚕糸業と小出銀行に関しては、蚕糸業は戦前日本の全国各府県で展開されており、国内の絹織物業向け生産も、無視でき

ない比重を占めていたにも関わらず、蚕糸業史研究は対象が長野県を中心とした、輸出向け生産の中心地に偏っている、小出銀行に関する実証研究はもちろん、一般に一次資料を利用した地方銀行の実証研究は極めて乏

しい、というのが研究史の状況であった。

そこで、当該テーマに関する実証研究を行うことで、上記2つの意味で研究史に貢献するとともに、これまで私が行ってきた石油産業史研究と、以下に述べるような意味で接続・統合することが可能になると考えた。

2. 研究の目的

これまで、私は一貫して日本の石油産業の歴史を研究してきた。それは新潟県を中心に発展したため、間接的に、産業革命期を中心とした新潟県経済にも言及してきた。

両者の関係を直接に取り扱ったのが、「地域労働市場と労資関係」(武田晴人編『地域の社会経済史』有斐閣、2003年)という論文である。同論文では石油産業の発展が、石油機械等を製作する鉄工業、精製に用いる硫酸を自製する硫酸製造業等の関連産業の勃興を促したと、などを明らかにした。

しかし、当時の石油産業は、投機的な事業と見られがちな鉱山業の特性を強く有したため、資金調達において金融業との関係が薄いこと、などの特殊性がある。ゆえに、この事例だけでは産業革命期の地域経済を、特に産業革命の中心ではなく、周辺とされる地域における資本主義化の問題を論ずるには不十分である。

そこで、当時の新潟県内で生産額・労働需要などにおいて大きな地位を占めた、他の産業と地域経済との関係を、金融業との関連をも意識して検討する必要があると感じた。それにより、産業革命、あるいはそれ以後も含めた広い意味での「産業化」と地域経済との関係を、新潟県を事例に、より多面的に論ずることができるからである。

その際、本研究の第一の特色として、小出銀行(当初名称は小出金融社)の諸一次史料(『日鑑』『貸附金元帳』『荷為替手形元帳』など)を、全面的に利用したことが挙げられる。銀行史、特に小出銀行も範疇に含まれる地方銀行の主要な歴史研究誌である『地方金融史研究』各号を一読すれば明らかなように、従来、銀行の内部資料の利用は概して困難なため、研究史は営業報告書や銀行外部の資料に依拠してきた。

これに対し、小出銀行は1933年に六十九銀行(現:北越銀行)に合併されたが、経営帳簿類は廃棄されずに保存されてきた。かつて、北越銀行が行史(北越銀行行史編纂室編『創業百年史 北越銀行』1980年)を執筆した際は、資料整理が不十分であったためか、小出銀行に関する同書の記述は簡略である。その後、同行(正確にはホクゲン経済研究所)資料室が目録を作成し、本研究開始の2年前に閲覧が可能になったばかりであり、当該史料を用いた研究は皆無である。従って、本研究は銀行史・蚕糸業史研究に実証面で大きく

貢献する研究であり、同史料を用いた初の実証研究とも言えるのである。

また、第二の特色として、本研究が国用系金融に関する初の実証研究を行ったことが挙げられる。従来の蚕糸業史研究の対象は、長野県を中心とした輸出向け生産の中心地に偏っている。実際には蚕糸業は戦前日本の全国各府県で展開されており、新潟県は産額においてほぼ中位の県であった。県内随一の蚕糸業地は北魚沼郡であり、県全体の動向に規定的影響力を持った。小出町はその中心で、かつ繭・生糸の集散地であった。北魚沼郡の生糸生産は、主たる供給先を横浜(外国)向けから次第に福井・金沢、そして新潟県内へと転換した。すなわち、国用系生産が次第に主流となった。

国用系に関する主要な研究として、従来等閑視されてきた府県を含む、全国各府県の蚕糸業の性格を分類分けした、内田金生「明治期の製糸業発展と国内市場向け生糸生産」(『明治大学大学院紀要』第31集、1994年)がある。しかし、内田氏の研究では、新潟県をはじめとした個々の府県についての指摘は不正確な上、府県内部の生産・流通構造などへの立ち入った言及はない。

本研究では、徹底的な資料収集を行った上で、明治~大正期における北魚沼郡を中心とした新潟県の蚕糸業に関して、内田氏の使用した基本統計を詳細に再検討するとともに、養蚕農家と製糸家の関係、製糸業の資金調達、製品生糸の流通などの諸側面から、詳細な実証研究を行った。これら諸点の検討が、各々蚕糸業の展開と地域経済という本研究の重要な論点を構成する。また、直接的には内田氏の研究を乗り越え、かつ、蚕糸業史研究における国用系研究・国用系金融研究の重要性を知らしめ、長野県を中心とした蚕糸業史研究の相対化を可能にしたと考えている。

3. 研究の方法

基本的に、まず基礎的史資料の収集・整理に時間をかけ、それを踏まえた分析を行い、その上で学会発表を行い、そこで受けた批判を踏まえて論文を作成して投稿する、というスタイルで研究を遂行した。

すなわち、2007年度から2008年度は、ホクゲン経済研究所を数回訪問するなどして、新潟県北魚沼郡の蚕糸業と小出銀行に関する資料の収集・整理を行い、その分析を踏まえて経営史学会全国大会での発表を行い、機関誌へ論文を投稿し、受理された。

ついで、蚕糸業と地域経済の関係の比較対象となるべき、石油産業と地域経済の関係について、巨大原油採掘業者中野家と、新潟県を本拠に活動した日本石油に関する資料収集と整理・分析を踏まえて、学会発表および論文発表(前者の研究のみ)を行った。

前者について。日本石油らに次ぐ原油採掘業者である、中野家の本拠地新津油田（現：新潟市内）周辺に、個人で石油精製を行う業者が多数存在し、彼らが後の大協石油（現：コスモ石油）や昭和石油（現：昭和シェル石油）の源流となった。このことは、石油産業史上だけでなく、地域内・地域間の石油産業における分業関係を示すという点で、斯業と地域経済の関係という視点から見て、重要である。よって、本研究では中野家（中野重孝家）に数回赴いて、その所蔵資料を閲覧・収集・分析し、分析結果とそのインプリケーションをまとめ、発表した。

後者について。大正期における日本石油産業の展開について、当該テーマに関する一次史料を多数所蔵している愛知大学での資料収集を踏まえ、国内最大の石油会社で新潟県を本拠とした日本石油の第一次大戦後の活動を、当該期の国際・国内両石油市場、石油政策の展開との関連の中に位置づけ、学会報告を行った。

また、上記の過程で生じたいくつかの新たな問題意識をもとに、下記「5. 主な発表論文等」に示したような、多数の学会報告および論文掲載をなした。

4. 研究成果

初年度においては、新潟県北魚沼郡の蚕糸業・金融業に関する基礎的史資料の収集と整理・分析を行った。その上で、小出銀行の経営史的研究が良好に進捗したため、10月に経営史学会全国大会で報告を行った。

第2年度においては、前年度の学会報告とそこでの批判を踏まえ、さらなる資料収集とその整理・分析を行った上で、学会誌『経営史学』に論文を投稿した。また、これとは別に、同学会からその英文誌“Japanese Research in Business History”に、同報告を外国人向けに内容を改めた上で投稿するよう要請を受け、英語論文を執筆・提出した。さらに、蚕糸業と地域経済の関係の比較対象となる、新潟県の石油産業と地域経済の関係に関する資料収集を行った。また、本研究全体に関わる現在の考え方を整理し、その内容を、「日本の産業革命」という題目で、2008年11月に札幌大学経済学部で講演した。そして、講演内容を整理・修正した上で、同大学の雑誌に発表した。

第3年度においては、まず前年度に『経営史学』に投稿した論文の査読結果を受けて、加筆・修正を施した上で最終原稿を提出した。“Japanese Research in Business History”に投稿した論文についても、最終原稿を提出し、刊行された。また、上記2論文の作成過程で新たに生じた問題意識をもとに、小出銀行と中越地方の他の地方銀行との資金貸借関係を、「インターバンク市場」という視点

から捉え、ディスカッション・ペーパーに論文を執筆した上で、TCER コンファレンスにおいて報告した。さらに、新潟県の石油産業について、巨大原油採掘業者中野家の事業展開に関する論文を、紀要『経済学研究』に投稿し、刊行された。

最終年度においては、まず上記の『経営史学』に提出した最終原稿が、論文「国用系金融と地方銀行 小出銀行のビジネス・モデル」として掲載された。次に、大正期における日本石油産業の展開について、国内最大の石油会社で新潟県を本拠とした日本石油の第一次大戦後の活動を、当該期の国際・国内両石油市場、石油政策の展開との関連の中に位置づけ、政治経済学・経済史学会全国大会で報告した。さらに、新潟県の石油産業の展開と地域経済との関連について、もう一つの斯業の中心地秋田県と比較した英語論文を執筆し、欧文紀要“Economic Journal of Hokkaido University”に投稿・掲載された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計6件)

Takao Naito, “The effects of the petroleum industry development on the local economies”, *Economic Journal of Hokkaido University*, vol.39, October 2010, pp.29-37.

内藤隆夫「国用系金融と地方銀行 小出銀行のビジネス・モデル」(『経営史学』第45巻第2号、2010年9月、3～28頁)。

内藤隆夫「明治後期～昭和初期における中野家の原油採掘業と原油販売」(北海道大学『経済学研究』第59巻第4号、2010年3月、17～37頁)。

内藤隆夫「銀行条例体制下における地方銀行間の階層構造の形成 明治～大正期新潟県中越地方の金融市場」(*Hokkaido University Graduate School of Economics and Business Administration Discussion Paper Series B*, No. 2010-84, January 2010, pp.1-19)

内藤隆夫「講演 日本の産業革命」(札幌大学経済学部附属地域経済研究所『地域と経済』第6号、2009年3月、135～146頁)

Takao Naito, “A Business Model of Silk Filature Financing by Local Banks The Case of the Koide Bank”, *Japanese Research in Business History*, vol.25, 2008, pp.11-32.

〔学会発表〕(計5件)

内藤隆夫「第一次世界大戦後における日本石油産業の転換」(政治経済学・経済史学会 2010 年度秋季学術大会、首都大学東京(東京) 2010 年 11 月)

内藤隆夫「銀行条例体制下における地方銀行間の階層構造の形成 明治～大正期新潟県中越地方の金融市場」(TCER コンファレンス「制度・組織と経済発展」、東京大学日本経済国際共同研究センター(東京) 2010 年 1 月)

内藤隆夫「明治後期～昭和初期における中野家の原油採掘業と原油販売」(政治経済学・経済史学会北海道部会、北海道大学(札幌) 2009 年 12 月)

内藤隆夫「国用系製糸業向け製糸金融を行う地方銀行のビジネス・モデル 新潟県北魚沼郡小出銀行の事例」(政治経済学・経済史学会北海道部会、北海道大学(札幌) 2008 年 10 月)

内藤隆夫「銀行類似会社＝地方銀行における健全経営と地域支援の相克 小出金融社の事例」(経営史学会第 43 回全国大会、愛媛大学(松山) 2007 年 10 月)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者 内藤 隆夫

(NAITO TAKAO)

北海道大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：6 0 3 1 5 7 4 4

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし